
ついでに一言、在野の呟き

近ごろ内外の情勢は物騒な動きが多い。ならず者の金正恩キムジョンウンの核やミサイルに恐れ、安倍政権は平和憲法まで改変を目指すという。米軍の尻にくっついて各地の戦闘に、自衛隊を派遣したら、隊員ばかりか現地企業も人質にされ、日本列島に核弾頭が飛んでくる。原爆を受けて核遺跡になるのは、もう、まっぴら御免だ。米国の核の傘のもとで、果たして再び核の巻き添えにならない保証があるのか。

TPP 離脱やパリ協定の脱退を宣言するなど、ランプの言いたい放題の発言に、世界の国々は振り回され、安倍首相は日米安保条約を信じ、これまで世界に向かって「核禁止」を大声で叫んできながら、米国の核の傘を頼み、「核兵器禁止条約会議」に不参加を表明するのは、世界の国々が不思議がっている。嫌われても、米露中仏等に核を棄てさせる精一杯の努力こそ、被爆国日本の役割でなかったのか。世界の「核廃絶の叫び」が泣いている。

かつて終戦の間際に、「日ソ中立条約」を勝手に破棄して宣戦布告、北方領土をかすめ取ったロシヤが、今また北方開発に投資させようと企んでいるプーチン政権。

支那は支那で隋・唐・宋の時代から、「戦をもってねじ伏せ、自らを宗主国」として、近隣諸国を虐げてきた長い歴史がある。

しかし、騎馬戦が得意の蒙古族・満洲族にやられ、蛮夷の国で格下と思いきんでいた東夷に日清戦争で大負けし、支那事変では表向きは勝ったものの、東夷は米国に負けただけだから雪辱した気分には全然ならない。便秘みたいに、ズーッと不快感が残り、スッキリしなかった。悔しいから、アレコレ騒いで日本を叩いてみたが、日本の企業は、うんざりして中国へ投資しなくなり、支那経済は傾き始めた。慌てて日本叩きを抑え始めたものの、冷めたギョーザに、日本人は白けている。

中国が発展し、国際社会の一員としての責任を果たすことは、アジア太平洋地域の安定と発展に望ましいと考え、日本政府は総額三兆円に余る開発援助と、改革開放政策を支援してきた。にもかかわ

らず、感謝の一言も聞いたことはない。支那の為政者の宗主意識は、今の共産党シージンペン/習近平の中国にも、いつまでも付きまとう。

最近に至っても、尖閣諸島のネコババを試み、南シナ海の岩礁を埋め立てて、国際世論を尻目に、軍事基地化を企むシージンペン習近平政権の仕草は、ならず者という他ない。

政権や己の人気取りに没頭し、他国や他人の迷惑を顧みない行動に、まさに「歴史は繰り返す」と云う現実を目の当たりにみる。

小異を捨てて共存共栄の道を探っていくことこそ、東アジアのみならず、地球人類に課せられた最大の責務ではないか。隣国との諍いさかいを繰り返している場合ではない。この地球人の愚かさは、宇宙人が居たら笑われる。

人は、歴史のひとつこまに生まれ育ち、歴史を育てていく。蟹は己の甲羅かにに似せて穴を穿つが如く、ある人は大きく、あるいは小さく、深く、または浅く、それぞれ分相応に様々な足跡を描いてこの世を去っていく。己の利権を偉そうに主張する人も、僅か百年たらずで土になる。

折角この世に生まれたのだから、世間や人の役に立つという程の大袈裟なことでなくとも、聖徳太子の教えの如く、「和をもって貴し」と生きていけば、核戦争や大きな諍いさかいも起こらないと思うが。「お前の考えは少し甘いぞー」と、云われるだろうか。

「天下太平 萬民豊楽 同心協力 人心救済 萬靈感謝 祈禱冥福 乃至法界 平等利益」と、先人が説いているではないか。

「人生、朝露の如し」と云うが、残り少ない人生を諍いさかいを避けて極力敵をつくらず、他人に迷惑をかけずに生きていければと思う。

一言のつもりが、物騒な動きがあまりにも多いので、つい、ぼやきが多くなってしまいました。

不－

平成二十九年六月二十三日 山下重良

山下重良著:[古代日本原記] 人類誕生と日本人の先祖,日本建国の黎明期に活躍した人々 ▼

<http://www.syamashita.net/history/>

山下重良編:日本の果物を育てた「果樹農業の発達史」▼ 付:「百果是真味」

<http://www.syamashita.net/history/Fruit/>